

学校評価書

令和5年度 輪島市立門前中学校 NO.1

<重点目標①(知)> 確かな学力の育成

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	今後の取組
自分の考えを分かりやすく伝える・表現する力の育成と学力の向上	(1)	アンケートの結果と各種学力調査の結果及び英検、漢検等の達成状況から評価する。	生徒	①授業では、集中して先生や友達の話の聞いている。	95.8	90.0	a	・生徒の授業への取組は概ね良好であるが、「子どもが意欲的に学習している」と回答している保護者の割合は60%と高くない。	・「授業が分かる」ことから「意欲的な学習態度」につなげる。そのために、授業で示した課題から、ペア・グループ活動を通してねらいに迫る活動を通して、生徒に「出来た」と思わせることで、意欲的な学習に繋げていく。
			保護者	②お子さんは、「授業が分かる」と言っている。	83.9				
			保護者	②お子さんは、学習に対して意欲的であると感ずる。	60.7				
			教員	①校内研究の研究主題を意識して学習指導に取り組んでいる。 ②ゴールイメージを持ち、それに到達できるような資料の提示をしている。 ③できる・わかる授業づくりのために、ICTを積極的に活用しようとしている。	100.0 100.0 100.0				
家庭学習の質的向上と学習習慣の定着	(1)	アンケートの結果と家庭学習時間調査の結果から評価する。	生徒	③家庭でも時間を決めて学習に取り組んでいる。	81.7	71.3	c	・「時間を決めて学習に取り組んでいる」と回答している生徒の割合は80%程度で概ね良い。 ・「家庭学習の習慣が身に付いている」、「テストに向けて計画的に学習に取り組んでいる」と回答した保護者は50%程度で開きが大きい。	・各種便りで日常的な宿題を知らせる。 ・テスト前に試験範囲を保護者に知らせ、テスト計画表をチェックをしてもらう。
			保護者	③お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。	51.8				
			保護者	④お子さんは、定期テストに向けて計画的に家庭学習に取り組んでいる。	51.8				
教員	④授業とリンクした予習・復習の課題を出している。	100.0							
ICTを生かした学びの改善	(1)	ICT機器の活用による授業改善とGIGA構想に基づく学びの質の向上を評価する。	生徒	④ICT機器を有効に学習に生かしている。	91.9	96.0	a	・「ICT機器を生かした学習に取り組んでいる」と回答した生徒、教員の割合は90%を超えており、意欲的に取り組んでいる。	
			教員	⑤ICT機器を活用した授業改善に取り組んでいる。	100.0				
新聞や読書を通しての活字への慣れ親しみ	(1)	200字作文、アンケート結果や読書調査から、文字や文章に慣れ親しみを評価する。	生徒	⑤学校や家庭で新聞や本を通して活字に親しんでいる。	63.3	60.9	d	・「新聞や本を通して活字に親しんでいる」と回答している生徒の割合は60%程度、保護者の割合は30%程度である。保護者の割合はかなり低い。	・朝読書や200字作文、メディアセンター内のお薦めの本の紹介などは継続して取り組んでいる。集会で本の紹介をして、家庭へも呼びかける。
			保護者	⑤家庭で新聞や本を読む習慣が身に付いている。	30.4				
			教員	⑥新聞や読書で活字に親しむように指導している。	88.9				

<重点目標②(徳)> 豊かな心の育成

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	分析と今後の取組
自己肯定感・自己有用感の涵養	(2)	アンケートの結果と学校行事の様子から評価する。	生徒	⑥自分には、よい面がある。	79.6	87.5	a	・生徒の自己肯定感は80%程度あり、「将来について考えている」と回答した生徒と保護者の割合も80%ほどで同じ程度である。 ・「学校は生徒の良い面を伸ばしている」と回答した保護者の割合は95%である。	・生徒の自己肯定感が更に伸びるように、授業、係活動、部活動等の中で褒める場面を設ける。 ・キャリアパスポートを用いて、将来について考える機会を定期的に設ける。
			保護者	⑦これからの自分のことについて考えている。	79.6				
			保護者	⑥学校は生徒の良い面を伸ばしてくれている。	94.5				
			保護者	⑦お子さんのこれからのことについて話をしたことがある。	83.9				
教員	⑥生徒のよい面を積極的にほめている。	100.0							
いじめ・不登校のない学校づくり	(2)	アンケートの結果と実際のいじめ、不登校の件数や経緯から評価する。	生徒	⑧自分は、友だちを大切にしている。	97.9	99.0	a	・生徒、保護者、教員とも「いじめや不登校のないようにしている」と回答している割合は95%を超えている。	
			保護者	⑧学校は、いじめや不登校のない学校・学級をつくらうとしている。	99.1				
			教員	⑧積極的・継続的にいじめ、不登校のない学校・学級づくりを心がけている。	100.0				
基本的生活習慣の定着	(2)	アンケートの結果と学校公開等での意見から評価する。	生徒	⑨自分は、挨拶がしっかりできている。	93.9	90.8	a	・「挨拶や語先後礼・無言清掃などができている」と回答している生徒や保護者の割合は90%を超えている。 ・「11時までには寝ている」と回答している生徒と保護者の回答は70%～80%とやや低くなっている。	・生活習慣を整えるように集会や教室、保健だより等で伝える。保護者からも呼びかけをしてもらうようお願いする。
			生徒	⑩語先後礼・無言清掃に取り組んでいる。	91.8				
			生徒	⑩11時までには寝ている。	81.6				
			保護者	⑨生徒たちは、挨拶がしっかりできている。	94.9				
			保護者	⑩お子さんは11時までには寝ている。	73.2				
			教員	⑨学校でのルールを生徒に守らせるよう指導している。 ⑩語先後礼・無言清掃の指導をしている。	100.0 100.0				
生徒会活動・部活動の活性化	(2)	アンケートの結果と生徒会の取組を客観的に評価したり、部活動の足跡から評価したりする。	生徒	⑫生徒会活動や部活動に積極的に取り組んでいる。	95.9	90.3	a	・「積極的に部活動に取り組んでいる」と回答している生徒の割合は95%を超えている。保護者や教員の回答は80%台とやや低くなっている。	・部活動の地域移行を見据えながら、保護者会等で保護者からも意見を貰い、協力してより良い部活動を目指す。
			保護者	⑪お子さんは、部活動に積極的に取り組んでいる。	83.9				
			保護者	⑫学校は、子どもたちが地域で活躍できる機会を充実させている。	92.6				
			教員	⑪普段の生活にも生かすことのできるような部活動指導を心がけている。	88.9				

<重点目標③(体)> 健やかな体の育成

NO. 2

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	分析と今後の取組
体育や部活動の充実による体力・運動能力の向上	(3)	アンケートの結果と対外的な活動の様子や学校公開でのアンケート等から総合的に評価する。	生徒	⑩体育や部活動を通して、体力の向上を図っている。	97.9	a	A	・「体力向上を図っている」と回答している生徒・保護者・教員の割合はいずれも90%を超えている。	
			保護者	⑪学校は、体育・部活動を充実させ、体力の向上・耐える力の向上を図っている。	94.5				
			97.5	97.5					
安心・安全な学校づくりと防災教育の充実	(3)	アンケートの結果と避難訓練、危機管理マニュアルを活用した対応等で評価する。	教員	⑬学校内外の安全指導の徹底を図っている。	100.0	a		・学校内外の安全指導の徹底を図っている。	
学校と家庭の連携による共同体づくり	(3)	アンケートの結果と生活アンケートの結果から評価する。	生徒	⑭ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくり、それを守っている。	75.1	b	B	・「ゲーム、パソコン、スマホ等の使用は、家庭のきまりを作り守っている」と回答した生徒の割合は75%、保護者の割合は50%と低く、開きも大きい。	・きまりを守らなかった場合にどうするかも併せて、今年度の家庭でのきまりを確認する。
			保護者	⑭お子さんは、ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくり、それを守っている。	51.8				
			97.5	75.6					
教員	⑭望ましい生活習慣を身に付けさせるための取組をしている。	100.0							

<重点目標④> 信頼される学校づくり

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	分析と今後の取組
信頼される学校づくり	(4)	アンケートの結果と対外的な活動の様子や学校公開でのアンケート等から総合的に評価する。	生徒	⑮学校に行くのは楽しい。	81.6	b	B	・「学校へ行くことが楽しい」と回答している生徒と保護者の割合は80%程度である。 ・「信頼できる先生がいる」と回答した生徒は77%で、保護者は89%の生徒の割合と比べると低い。	・報連相を適切に行うことで、教職員の言動や行動のズレを防ぐ。保護者と良好な関係を築くために、必要な連絡を忘れずに行う。
				⑯信頼できる先生がいる。	77.5				
				⑰地域の行事に積極的に参加している。	87.8				
			保護者	⑮お子さんは、学校へ行くのが楽しそうである。	82.1				
			⑯信頼できる先生がいる。	89.1					

<重点目標⑤> 組織的な学校づくり

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	分析と今後の取組
業務改善の取組	(5)	アンケートの結果と業務改善の具体的な項目を明らかにして評価する。	保護者	⑰学校は、多忙化改善に向けた取り組みを積極的に進めている。	94.5	a	A	・多忙化改善に向けた取組は、保護者の回答も94%あり、評価は高い。	
		教員	⑰業務改善に向けた積極的な取組を実践している。	100.0	97.3				
組織的な学校づくり	(5)	アンケートの結果と各種たよりの発行回数、HPの更新頻度等を合わせて評価する。	教員	⑱各種たより等を通じて、情報発信している。	100.0	a	A	・便りを通し手の情報発信や保護者との連絡もこまめに取っており、管理職への報告・連絡・相談も出来ていると回答している。	
				⑲生徒のことにについて、保護者との連絡をとっている。	100.0				
				⑲服務規律を遵守している。	100.0				
				⑲管理職への報告・連絡・相談を行っている。	100.0				

《アンケート集計から自己評価までの流れ》

① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する。
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が85%以上 ⇒ a
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が75%以上 ⇒ b
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が65%以上 ⇒ c
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が65%未満 ⇒ d

② 評価の方法に記載してある方法で自己評価を行う。